

BeutiBond Xtreme



秋本歯科診療所
秋本 尚武先生

臨床現場の声を
お届けします。



ビューティボンド Xtreme with Giomer Restoratives

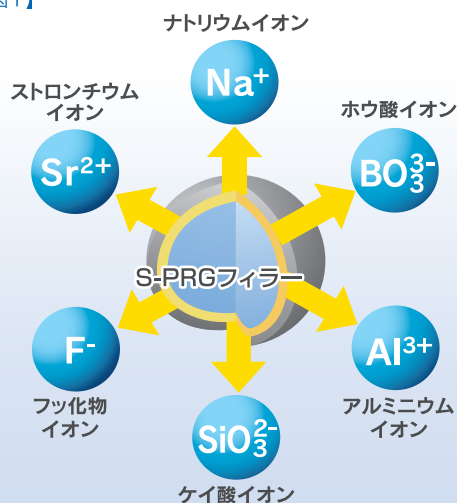
ここ数年、臨床ではユニバーサルボンドと呼ばれるワンボトルワンステップの多目的レジン接着材が各社より市販され、広く臨床で用いられるようになってきている。多目的とは、歯質、金属、そしてセラミックスなどの被着面への接着を示す。このうちセラミックスに対する接着に対してはシランカップリング処理剤を配合することでその機能を示してきたが、これまでのシランカップリング剤は、酸性環境下で分解すると考えられており、酸性モノマーとの配合は一部の研究者の間で疑問視されているところであった。

今回松風が新たに開発した新規シランカップリング剤は、酸性環境下においても安定した状態を保ち酸性モノマーとの共存を可能にした。これにより、新たに多目的レジン接着材ビューティボンド Xtremeが開発され、リペア修復においてこれまで煩雑だった前処理を、被着面の種類に関係なく一度に処理することが可能になった。リペアにおいて想定される金属(貴金属・非貴金属)、CR硬化体、陶材、ジルコニアなど各種被着体への接着強さは、メーカーのハウスデータではあるが十分に担保されており、特に金属とジルコニアに対し高い接着強さを示している。また歯質に対する接着強さは、ビューティボンド ユニバーサルに匹敵あるいはそれ以上の値を示している。

松風の修復材料の特長は、独自に開発したS-PRGフィラーを含んだGiomerと呼ばれる製品であり、S-PRGフィラーからの6種のイオン徐放が可能でバイオアクティブ材料である(図1)。今回開発されたビューティボンド XtremeはGiomer製品ではないが、ビューティフィル フロー プラス XなどGiomer修復材料からの各種イオンの通過を妨げることなく、歯質へのイオンの供給を可能にすることが確認されている(図2)。

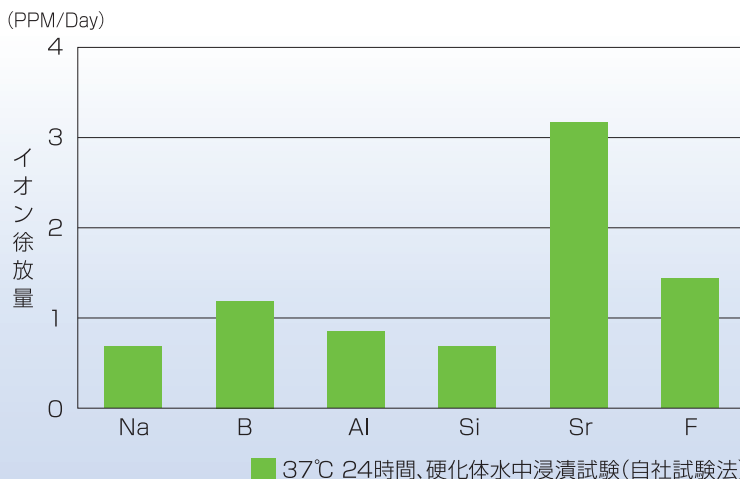
本クリニカルレポートでは、ビューティフィル フロー プラス Xと今春発売されるビューティボンド Xtremeによる臨床例を紹介する。

【図1】



【図2】

ビューティボンドXtremeを用いて包埋したビューティフィル フロー プラス X (F03)硬化体からのイオン徐放挙動



症例 1 リペア修復



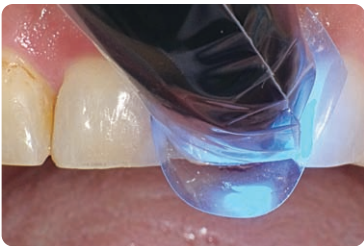
術前：上顎左側中切歯切縁のレジン前装部の破折。被着面はメタルとコンポジットレジンである。



形成：コンポジットレジンを一層切削し新生面を出す。



接着処理：被着面にビューティボンド Xtremeを塗布後、エア乾燥を行う。ビューティボンド Xtremeはサラサラとした感じで被着面へのぬれもいい。エア乾燥後のボンド層は非常に薄く被着面に馴染む感じである。



処理面への光照射：ストリップスを装着後、光照射を十分に行う。

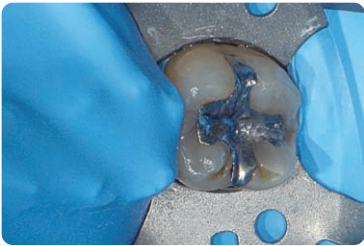


充填と光照射：ビューティフィル フロー プラス X (F03, A3)を充填し光照射を行う。

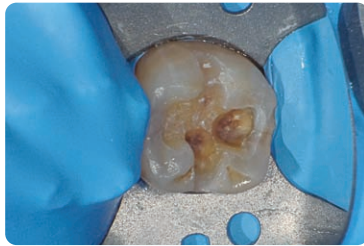


術後：超微粒子ダイヤモンドポイントにより形態修整後、通法に従い研磨を行う。

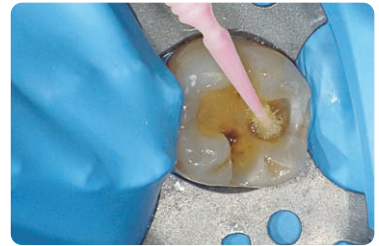
症例 2 金属修復物の審美回復



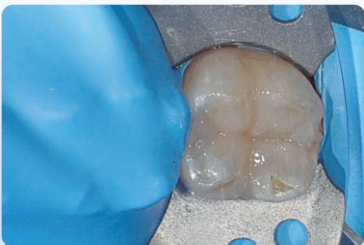
術前：下顎左側第二大臼歯メタルインレーの二次う蝕。局所麻酔後ラバーダムを装着。



窩洞形成：メタルインレー除去後、遠心窩底部に感染象牙質を認めたことからう蝕検知液を指標に感染象牙質を削除。



接着処理：窩洞内にビューティボンド Xtremeを塗布、エア乾燥後、十分に光照射を行う。ビューティボンド Xtremeは操作性が良く歯面塗布が容易である。またエア乾燥時にすぐに薄く均一な層になる。



充填と光照射：初めにビューティフィル フロー プラス X F03 (A3)を窩底部に一層充填し光照射を十分に行う。その後、ビューティフィル フロー プラス X F00 (A3)を咬頭ごとに充填する。1咬頭ずつシリンジから直接充填を行い、解剖学的形態を付与して数秒光照射を行う。これを繰り返し、咬合面形態を作り上げる。最終的に光照射を十分に行う。



術後：ラバーダム除去後、咬合調整と形態修整を行なった後、通法に従い研磨を行う。

取扱い店